

# 金田一耕助ファイル(1)「八つ墓村」



[金田一耕助ファイル\(1\)「八つ墓村」\\_下载链接1](#)

著者:横溝正史

出版者:角川書店

出版时间:1971

装帧:单行本

isbn:9784041304013

金田一耕助の長編推理、第四作。サスペンスとロマンに溢れた作品。

昭和四十七年十二月三十日 九版昭和五十二年七月三十日 四十二版

終戦後のある日、神戸で育った青年田治見辰弥は、これまで一度も耳にしたことが無かった故郷からの使者と相対していた。それによれば、《八つ墓村》——山陰の山村だというその村こそ、彼の生まれた場所なのだという。

戦国時代、八旗の落ち武者が隠した財宝が眠るという伝説の残るこの村から、幼い彼を抱いた母は出奔した。彼女は辰弥に事情を一切語らずに亡くなったが、それもその筈で、影には身も凍るような恐ろしい惨劇が隠されていたのである。

要蔵——つまり彼の父は、村の地主田治見家の主であった。しかし二十余年前、狂気の中で三十二人の村人を惨殺し、そのまま失踪したのだという。村人によれば、八旗の落ち武者を討った呪いが要蔵を狂わせたとしか考えられない。母、鶴子は妾でしかなかったが、村人の追及を恐れて村を離れるしかなかったのだ。

そして今、田治見家の嫡流が途絶えんという事態の中、辰弥の搜索が急務になったという事らしい。

しかし、帰郷を決意した彼の眼前で次々と繰り広げられる血の惨劇。村人は恐れ、古の呪いの再現だと騒ぎ始める……。

作者紹介:

言わずと知れた日本推理小説界の雄。

日本的な怪奇趣味と欧米のミステリにも遜色ないトリックを、独自のテイストで融合させた作品を発表し、一時代を築いた。

神戸で生まれた横溝は、少年時代から三津木春影による翻案物の探偵小説などに親しみ、作家になろうと思い立ったという。

デビューは一九二一年（十九歳）、短編『恐るべき四月馬鹿』を書き上げて、雑誌《新青年》の懸賞に応募、一等入選を果たした。

一九二六年、江戸川乱歩に招聘され上京、博文館に入社。乱歩の後を受け雑誌編集長等を歴任するかたわら、執筆にいそしむ。

一九三二年に博文館を退社して作家活動に専念。しかしすぐに胸を患い、長野県へ転地療養を余儀なくされる。

一九三五年、およそ一年半の療養の後に立ち直り『鬼火』や『真珠郎』などの傑作をものにする。

戦時中は国家権力によって探偵小説が「退廃芸術」の烙印を押され、発表がかなわない時期が続いた。横溝は検閲を逃れるための捕物帳（人形佐七捕物控）等を書き、何とか糊口をしのいでいた。横溝にはこの時代が一番不遇だったが、しかしそれが後に大きく飛躍する力を彼に蓄えさせた。横溝は密かにトリックを練り、大作の構想をいくつもまとめていたのだ。このとき横溝を支えていたのは、いつか海外作品に遜色のない本格推理を物にしようという情熱だった。

終戦間近の一九四五年四月（昭和二〇年）より三年ほどの間、岡山県真備町へ疎開。そこで玉音放送を聞いた。その情熱に歯止めをかけていた国体の崩壊と同時に、横溝

は競走馬がゲートから飛び出す様に猛然と筆をとり、本格推理長編の名作を連発する。

一九四八年、『本陣殺人事件』で第一回日本探偵作家クラブ賞を受賞。その後『悪魔の手毬唄』あたりまでの十年ほどの間、とんでもない勢いで名作のラッシュが続く。『獄門島』や『犬神家の一族』『八つ墓村』など、後にブームになった「金田一もの」は、殆どこの黄金期に書かれている。

一九六〇年代以降、社会派推理の台頭と共に長い低迷期に入るが、角川書店で文庫化されるや再びブームとなり『犬神家の一族』をはじめとする黄金期の作品が次々と映画化された。

これに伴い著者自身の執筆熱も再燃し、『仮面舞踏会』『病院坂の首くくりの家』『悪霊島』など、往年のスタイルに基づく作品群が生み出された。この時、後に作家となる少年少女の胸に新本格推理の種が蒔かれたのは確かで、これもまた著者の功績の一つであろうと思う。

目録:

[金田一耕助ファイル\(1\)「八つ墓村」\\_ダウンロード1](#)

## 标签

横沟正史

金田一耕助

推理

日本推理小说

日本

日本文学

推理小説

险惊恐悬军幻

## 评论

除了女王蜂 印象最深就是八墓村

-----  
印象最深的案件，无敌

-----  
在“力薦”和“推薦”之間掙紮了下。反正小說里的辰謎不是藤原竜也演的所以算了還是推薦吧。--

-----  
我怎么对横溝正史的推理作没啥印象

-----  
对气氛的渲染绝了，直接导致我一度以为自己在看恐怖小说。

-----  
がっかり。用了一个星期总算啃完了。汉字太少片假名一大堆原来是这种感觉。这个故事还可以值4星，但是金田一是干嘛的，酱油男吗？扣一星。应该是「似非伝説殺人」…横溝正史続けて読むか？ 要不要看中文版犹豫

-----  
金田一耕助。

-----  
有点混乱・・・不太喜欢

-----  
看的是电影，豆瓣没电影的记录，所以就拿书来代替了

-----

拖沓的剧情让我生不如shi

虽然我觉得窑洞（仿佛是把）什么的很坑爹……不过这篇作品我非常喜欢！虽然金田一像个跑龙套的……虽然杀人动机一如既往得牵涉到遗产甚的……

这文过于渲染气恐怖氛了，然而金田一打酱油的。。

写的好啊。因为这是我看的这个系列的第一本，所以无从与其他的作品比较，只说说我对这部作品的看法。这是一个以第一人称为主角的悬疑推理小说，金田一在这个故事里面并不是非常主要的人物。因为是以一种记录性的口吻来写的，加入了一些与读者的互动，让故事显得更加真实。里面对于悬念的描写很精彩，对于感情的描写很真挚。

这里卖弄有个双胞胎老婆婆，好恐怖

金田一耕助的推理是我看过最喜欢的，比江戸川乱步更易懂，比欧美文学更贴近亚洲人的变态。。。

看电影，好像在他的孙子金田一系列也有这个剧情，但是凶手不一样

不错的推理，把人性描绘得淋漓尽致。

金田一的爷爷

恐惧的是恐惧本身。。

-----  
大学时期，偶然看到同学拿着的这边小说，看了就入迷了，接着把横沟正史的作品都看了，案件构思精巧，引人入胜，喜欢

-----  
[金田一耕助ファイル\(1\)「八つ墓村」\\_下载链接1](#)

## 书评

這個算劇透么？-- 嗯。那我目的達到了。。。木哈哈~~~~~  
開玩笑其實我目的不是來劇透的。。我只是想說它真的嚇到我了。--  
也不是因為我很容易被驚嚇啦~我就是覺得它恐怖!!! 嚇死我了!!!!  
我知道這是一篇沒有任何技術含量的書評。。但是我大半夜看的真被嚇壞了=...

-----  
[金田一耕助ファイル\(1\)「八つ墓村」\\_下载链接1](#)